

名家連ニュース

令和7年5月25日(日)

発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 池山 豊子
TEL/FAX(052)846-5576 NO.1038号

第27回 名家連定期総会開催

5月18日(日)午後1時より、名古屋市総合社会福祉会館大会議室において、第27回名家連定期総会が開催されました。会員数の12家族会の出席があり、総会は成立いたしました。池山会長の挨拶に続き、名古屋市健康福祉局健康部健康増進課精神保健担当課長補佐 永井太一様、愛知県精神障害者家族会連合会理事 江崎英直様が来賓挨拶をされました。今年度は役員改選がありませんが、新たに副会長に水野寿美さんを選任いたしました。審議議案も、会員の皆様から承認をいただき、つつがなく終了いたしました。総会参加者数は36名でした。

記念講演会では、バレーボールとの出会い～その後のリハビリ～のテーマで河合俊光氏(NPO法人サーティーン代表理事)が講演されました。

河合氏は4人兄弟の次男で、小学生時代は「のび太君」のようでした。姉は、河合氏をかわいがってくれてとても感謝しているそうです。兄は、並外れた運動神経を持つが、あまり努力はしなかった。妹は、鉄棒が得意だったそうです。姉はパーキンソン病、兄はギャンブル依存、妹は30年以上引きこもりが続き、河合氏は、「家に近づかない」「関わりたくない」など逃げてばかりいて、サービス業に就職してからは、管理職になり、仕事がハードで心が壊れ、うつ病を発症しました。そして福祉を知ることになり、サポートセンター「なないろ」の手伝いをするようになりました。「なないろ」では、いろいろな事(実家の事)を話すことが出来、また、たくさん色々な事を抱えている人がいました。その後、バレーボールをきっかけに、名古屋サーティーンを立ち上げました。うつ病から元気を回復するきっかけがバレーボールであり、全国大会まであることを知り、はまってしまったそうです。河合氏は、全国障害者スポーツ大会に出場して、決勝まで行くことが出来たが、「全国ドリームマッチ」というどんなチームでも参加できるようなネットワークを作りました。ほとんどのメンバーが精神疾患を発症してから始めたメンバーばかりで、スポーツ経験なし、バレーボール経験なく、リハビリから練習を始めました。最近は、発達障害のメンバーさんも多くなり、最初は情報を提供することから始め、あまり誘わない、本人の気持ちを尊重するようにしているそうです。



バレーボールをやることにより、大事にしてきたことは、障がいのある人、ない人関係なく、地域とつながり、また子ども達ともつながることが出来たことだそうです。10年以上続けてきたが、最近は体力的にもしんどくなってきたそうです。今は「ゆっくり」を心がけながら、自転車のリサイクル、ビジネスホテルの客室掃除を業務とするA型事業所「サイクルサービスなごや」で、職業指導員をする傍ら、小学校の部活指導もされているそうです。

4年前、父が亡くなってから、引きこもりの妹を名古屋へ呼び、基幹支援センターで、福祉アパートを紹介してもらいました。永年引きこもっていましたが、最近B型で就労支援に通い始めました。

河合氏の講演のあと、サーティーンの3人のメンバーの皆さんが登場されました。

Yさんは、5年前に初めてサーティーンに来たときは、全く話せなかった。練習後「仕事やってみようかな?」と見学しに行き、現在、ベトナムは、「とてもいい感じの仕事である。」と話されました。Tさんは、病院のデイケアに通っていて、以前は旅行会社に勤めていたそうです。Mさんは、体を動かすこと(ホテルの清掃)により、1年かけて体重が11キロ減ったそうです。皆さん、等身大(ありのまま)で仕事できており、本人のペースで体を動かすことができ、毎日が退屈しない、苦痛にならないそうです。スタッフもとてもやさしいとのことでした。

バレーボールや仕事を通して、メンバーさんに対する河合氏の愛情の深さを感じました。河合氏、そして3名のメンバーの皆様、ありがとうございました。(文責 大橋)